

覆面のまま進められている

「夕張岳ワールドスキー場」開発計画

今村 朋信



◆はじめに

わたしがここに取り上げる「夕張岳ワールドスキー場」開発計画は、総事業費五千億円の夕張ワールドリゾート開発事業計画の一部に過ぎない。しかもそれさえ、夕張、芦別、赤平、三笠、歌志内市、上砂川町の五市一町で構成された空知炭鉱市町活性化推進協議会が描く「空知山岳ワールド」構想の一地域である。それにもかかわらず、なぜ、わたしがこの一点を取り上げたかといえば、夕張岳は夕張山地のすべてにおいて代表であるからだ。この地域への対応を見れば、他地域への配慮も十分察しられるからである。

この構想をわたしが知ったのは、昭和五十四年(月刊セイダン十月号)である。他方本願の道開発に発想の転換を迫る直言として、時の寺田札幌通産局長が提言したのである。それを受けて、当時革新系の夕張市議宮下芳徳氏(現・三菱鉱業セメント札幌支店)は、「私たちは、この構想をぜひ実現したい。もちろん自然保護は大切であり、十分その点に配慮

していくつもりです。いずれ自然保護団体ともじっくり話し合い、調和を見出していきたい」と語られた。夕張市もまた、「道自然保護団体などにスキー場開発の理解を求めていく」(日経新聞 62・1・24、2・26)と言った。だが、それからすでに十年経った今も、その発言はただの発言に終わっているのはどうしてだろう。決断と実行の人と評価されている中

田夕張市長がこの間腕をこまねいていたとは考えられないし、現に政府は、六十三年度予算に夕張岳周辺の大規模リゾート開発構想に対する事業化促進補助金(調査費一億円、クオリティ63・2月号)を認めたことは、その事実を裏書きしている。とすれば前言はただのポーズに過ぎないのか。すべてを隠密裡に進めることが得策と判断してのことなのだろうか。閉山相次ぐ産炭地の現況を理解し、同情もしているわたしたちとしては、十年間つんば機敷に置かれてるのが実に情けない。反対のための反対をすと思つてのことだろうか。

過日、「新生」夕張地域おこし計画』が夕張市から発行(62・2)され関係機関に配布されたと聞き、

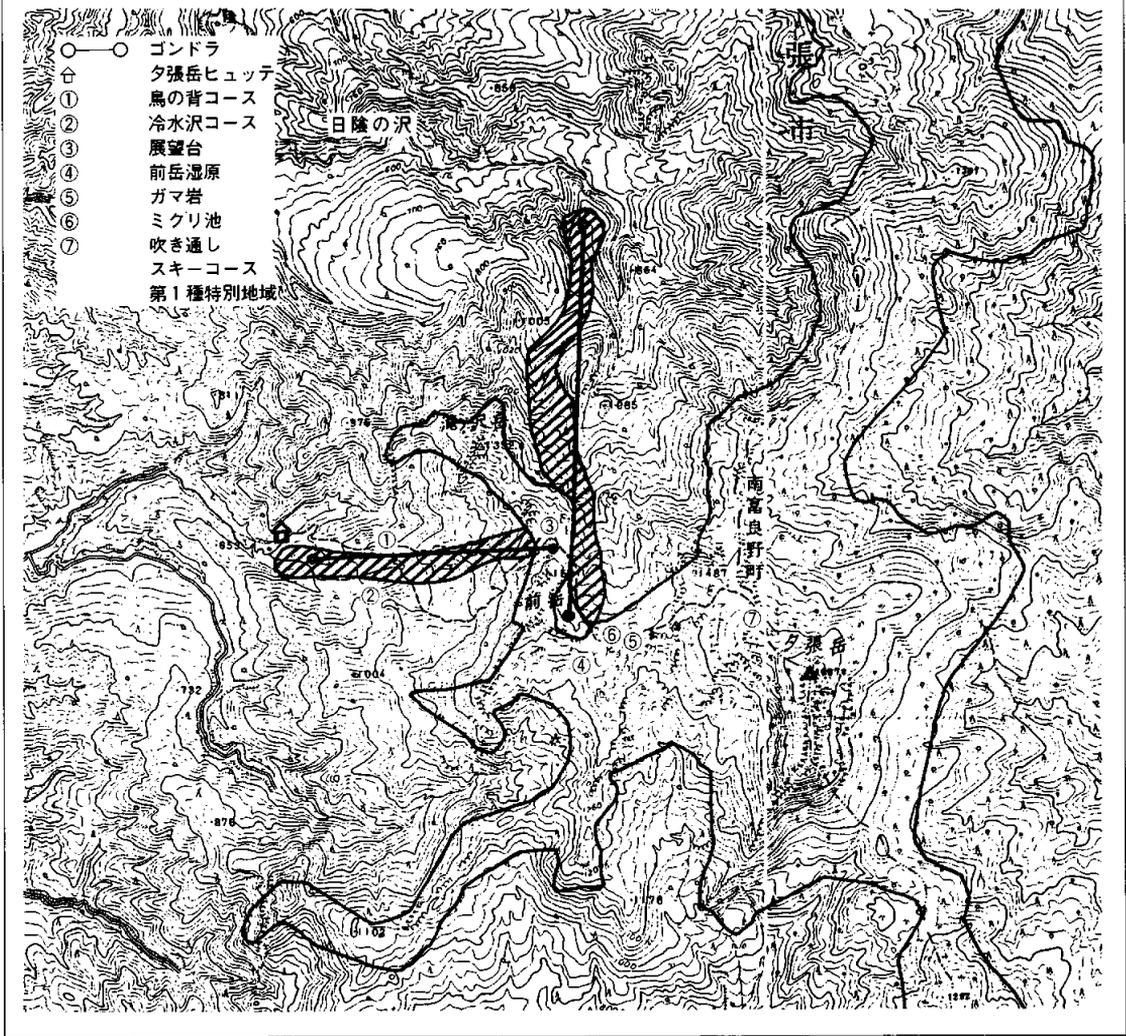
当協会の八木会長に、道自然保護課へご足労願ったが、借用できたのは、イメージをまとめたスケッチと概説だけの本誌のみで、地図などは一見もさせてもらえずに終わった。「お見せできるものはお見せする」ということだったというが、これもまた残念な話である。

とすれば、わたしたちは、待つ姿勢から一転して求めに転じなければ、すべて後手に回って通る論議も空転に終ることになりそうだ。しかも、「新生」の年次計画表によれば、高山植物園、バカンス村、夕張ワールドリゾート開発、道路建設等の事業ですでに着工し、六十三年度には完成を目指しているものがあることを知ればなおさらである。

そこで、わたしは、次のことを求めるとともに確認したい。

- 一、「空知山岳ワールド開発事業」は、道(民)開発のレベルで考えること。
- 一、計画資料を公開し、いたずらに憶測、不信を高めないこと。
- 一、説明会、及び公聴会を開催し、無駄な混乱、

夕張岳ワールドスキー場開発予測図



努力をさせないこと。

次に、手元の資料は少ないが、誤解や叱声を覚悟の上で、伝聞も加え、わたしの独断と偏見を混じえ不安と危ぐを列挙し、大方のご意見、与論の高まりを願うことにしたい。本来、計画資料が公開されていない段階でいうべきではないのだろうが、「新生」の主要プロジェクト事業計画の終りに、「夕張市の希望はいずれもが緊急対策であるので、非常に短い時間軸で計画してある。早期着手・早期完成の実現をめざしたい」とある。今までの開発事業の多くがそうであったように、またしても、強引に工事を進めるのではないかと危ぶまれるからである。

◆環境アセスメントについて

当然のことながらこの種の事業を行うに当たって環境アセスメントは欠かせない。道は五十八年度に「自然公園総合調査(富良野芦別道立自然公園)」を実施し報告書を発行しているが、関係する開発計画について、「夕張岳については道も話はいっているが、夕張岳は自然公園における風致景観保護区分で特別地区、一種地域が多く、これをどうクリアするか。また夕張岳にしかない高山植物も多く、自然保護団体の反対をどうかわすかなど課題は多い(道観光局・青木良一係長・62・7月号)と述べている。

夕張市長は同紙面で、「環境影響調査を七月頃に実施しようかという段階で、開発するかどうかもまだきまつていない」と言っているが、六十二年十二月二十五日付朝日新聞紙に、「夕張岳開発・国が後押し」という見出しで、「市が環境影響評価(アセスメント)を進め、来年三月に結果が出る、などの事情が考慮されたためだ」という記事がある。続いて道自然保護課によるものとして「開発予定区域の一

部が、立木の伐採、リフトなどの工作物の設置などについて厳しい規制がある特別地区に食い込んでいる」ことを明らかにしている。

これらの言を比較し問題に思うのは（記事をそのまま受け止めると、「計画が特別地区に食い込んで」ことを承知しているながら、「自然保護団体の反対をどうかわすか」などと道の関係者が発言していることだ。「かわすか」とは、わたしたちの真意がどこにあるかを誤解しているか、邪魔者としてしか認識していないからではないのか。そのことは問題にしないとしても、この発言には、特別地区の一種も二種も無視して、「許可、決定」という結論がすでにあるかに思えてくる。

◆市長の発言にもその駆け引きが丸見えだ。

「アセスメントを七月頃に実施しようか」という段階だといながら、十二月に「アセスメントの結果が来年（六十二年）三月に出る」という。いったい全体五カ月間でのような調査ができるのか。六十二年一月二十四日の日経新聞には、「市独自でまず環境影響調査を進めることにした。調査会社に委託し、自然破壊を招かないようにスキーコースなどを決めたい考えだ」という記事も見られる。これだけの規模の事業を行おうとするのだから、十年の先を見据えて進むことは当然のことだろうが、なぜもっと積極的に、素直に、外に向かって発言し、理解と協力を求めようとならないのか不思議である。これらの記事から推測すると、すでに調査会社に委託してアセスメントを行っているようだが、この種の調査はより具体的にどのような項目を設定するかで結論が決まるというが、一切隠密裡に進められていて



東側からガマ岩を望む

は、自分に都合のよいように結論づけし、このとおり十分調査しての上だという常とう手段のゴリ押しをまたしても取るのではないかと勘ぐらざるを得ない。

◆夕張山地は誰のものか

林野庁が、「森林に生息する動植物が、バイオテクノロジー研究対象に貴重であることから、動植物

の種類が豊富な天然林を「生物遺伝資源保存林」に指定、保存することにした」（63・2・26道新）と発表した。

夕張山地は、この条件にまず第一に該当することは間違いあるまい。浅学非才のわたしがこの地域の貴重さについてあらためて言及する気はないが、その価値を認めたからこそ道は、富良野芦別道立公園に指定（30・4）したのでろうし、それに先立ち十

分な調査も行ったことだろう。そしてまた、五十八年度には、さらにこの地域の重要性にかんがみ、一歩突っ込んだ保護管理を目的とした調査を道は当協会に委託してきた事実を裏書きしている。その結論として、植物の調査担当をした鮫島、佐藤の両氏は、「本山系の植物を評価すると、国指定の特別天然記念物、あるいは国立公園としての価値が充分にあることを記しておきたい」と述べておられる。



ガマ岩東側

夕張岳ワールドスキー場開発プロジェクトのみなさんは、このことを十分承知しておられるはずだ。今までの発言にもそのことはうかがえるのだが、だが、果して本音で言っておられるのかということになるとどうも肩つば物と云わざるを得ない。「新生」を貫く主張は一貫して、空知山岳地域はそこに居住するわれわれの物で、縦横に絵筆をふるってそこに絵を描く、文句は言わさん、という迫力に満ちている。地域の生存を賭けた事業だというが、ある意味では地域エゴともとられかねない。

いずれにしても、夕張岳は日本の宝庫であり、世界の宝庫であることに異論を挟む人はいないだろう。五万分の一地図に握りこぶしを置くと隠れるほどの小さな地域だけに

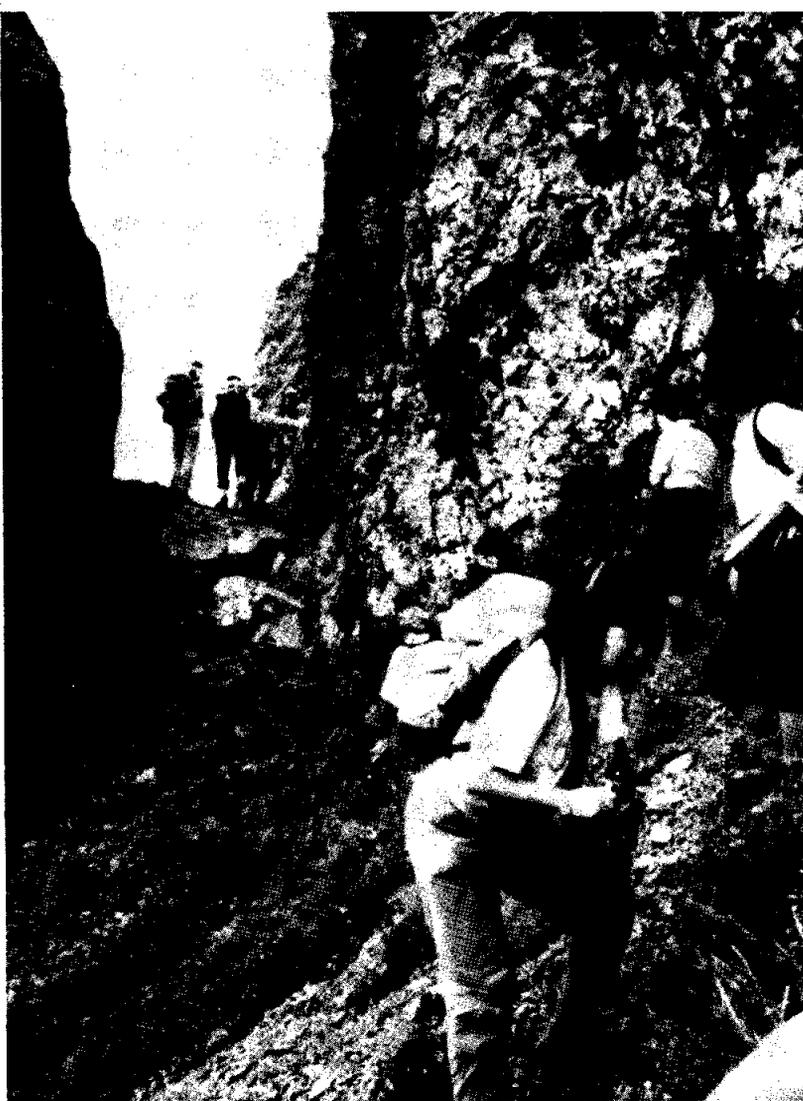
一部でも崩れるとまたたくまに千万年を経た今日の環境が失われることを胆に銘ずべきだ。

◆夕張岳ワイルドスキー場開発計画について

スキー場開発をバックアップする企業のイメージ図を見るチャンスがあった。東面を除くすべてにスキーコースが展開されていたことに驚嘆した。山登りが好きで一帯を歩いたわたしは、確かにその可能性を認めるが、樹木を伐採しゴンドラを設置しての大衆化スキー場開発にはどうしても賛成しかねる。

「新生」に添付された計画案は、それより大幅に縮小した三菱グループ案らしいが、コースは二本、長さ二千四百メートル、三千六百メートル、四一六人乗りのゴンドラを二ルート通すことになるようだ（日経62・2・16）。そこで、メインベースという日陰の沢、またはペンケモユロ川上流の山小屋のある位置から五分分の一地図に仮線を引いて見た。その行きつく先はどう角度を変えても、特別地域に突入してしまう。風聞によれば、関係者のある人は、「このくらい入ったってどうということないだろ」と言ったそう。山小屋からのゴンドラは前岳の北肩、日陰の沢からの、ガマ岩を東にした前岳との中間を終点にする案と聞く。「ここまで延ばさないと観光上意味がない」という考えだという。将来、ヘリコプターを飛ばすというから基地づくりも考えられているのだから、この一帯は蛇紋岩地帯で、地滑りが起きやすい地質なので建造物は避けるべきだという従来の定説から考えると、基礎づくりは大工事となるだろう。当然企業としては、採算上夏期にも景観と特種な高山植物を宣伝しゴンドラを稼働させるだろうから、今でさえ高山植物の盗掘や登山者の踏み

荒らしが問題になってきているのに、これらの設備が山頂帯に建設されれば加速度的に荒廃することは眼に見えている。それは、今までに開発されたリゾート基地や観光地の現況から押して十分推測されることである。



ガマ岩西側

きたい。いずれにしても、夕張岳ワイルドスキー場開発事業が動きだせば、全国規模の反対運動が起きることは必至であろうし、世界の識者の批判を受けることも当然であろう。いかに生き残りのためとはいえ、許されることと、してはならないことがある。わたしの懸念が、単なる杞憂に終ることを念じつつ問題提起の筆を置く。

◆おわりに

先にお断わりしたが、資料未公開のためかなりの憶測や伝聞による記述が多いことを承知していただ

(NTT社員)